

昔おきなわ風景探索

沖縄県公文書館所蔵の写真と空中写真

1965年頃



地図を表示

Q. どこでしょうか？



(写真番号: 011323 をカラー処理)

糸市街地。A

戦後、安謝の火葬場の向かいに石灰窯があった、とお年寄りが話していました。その石灰窯と思われる写真が公文書館にありました。上の写真は、元々白黒写真ですが、簡易的なカラー処理しました。写真には、火葬場と円筒形になった窯らしきものがみえます。昔、沖縄では、海からとれたサンゴを石灰窯で焼いて消石灰をつくりました。出来上がった石灰は、漆喰の材料になります。藁とねばりを出すためにスナヅル（方言名: ニーナシカンダ）を混ぜ、屋根瓦工事に使ったそうです。近くに大消費地の那覇市街地をひかえ、戦後の復興に活躍したことでしょう。また、石灰は、製糖時に黒糖を固めるものや染料の藍玉をつくるのに欠かせないものでした。



①写真番号：011322



②写真番号：011320



③写真番号：011321

表紙と一連の写真3点(①~③)です。青色矢印の位置から撮影したと思われます。1965年頃の写真ですが、上の1962年の空中写真と比較するとだいぶ埋め立てられていることがわかります。窯の周りにはサングと思われる物が山積みされています。煙も見えないので、窯を閉じる頃でしょうか。

次の5点(④~⑧)の写真は前頁空中写真の紫色矢印の位置から撮影したと思われます。船着場の沖合には伊奈武瀬と思われる干瀬がみえます。現在の曙小学校から東側が、新しく埋め立てられていることがわかります。



④写真番号：011331



⑤写真番号：011330



⑥写真番号：011324



⑦写真番号：011328



⑧写真番号：011332



(写真番号：052752)



那覇新港予定地 (1968年、推定場所：地図の緑丸付近)

前頁の矢印の位置を現在の地図（国土地理院）に落としてみました。地図左上の学校は、曙小学校です。その周辺は、昔は海だったことがわかります。埋立地にはまだ建物ができていません。時代を経るごとに景観が変化していくことがわかります。右側の写真は1968年の写真です。建物はまだ少ない状態です。

昔おきなわ風景探索 No. 1

発行日：令和6年（2024）10月25日

編集執筆：当山昌直（1951年生）

発行：（公財）沖縄県文化振興会 公文書管理課

〒901-1105 沖縄県島尻郡南風原町新川148-3 沖縄県公文書館内

電話 098-888-3875（代表） FAX: 098-888-3879

沖縄県公文書館デジタルアーカイブ

アメリカ統治下にあった頃の写真や空中写真を公開しています。

